

正副議長記者会見 会見録（概要）

日 時：平成28年5月16日 14時00分～

場 所：議事堂3階 全員協議会室

（質問）副議長は就任が決まりました、議長は2年目が始まりましたが、それぞれ今後の意気込みと抱負をお聞かせください。

（副議長）このたび、第110代副議長に就任させていただきました。大変責任の重さに身の引き締まる思いでおるところでございます。県民主体の県政がさらに発展していきますように、また県議会が円滑に運営されていきますように、中村議長を補佐させていただきました、精一杯やらせていただきますということを、まず述べさせていただきます。所信表明でも申し上げましたけれども、去年から議会改革推進会議でまとめられました議会活動計画が試行的に始まりまして、今日の委員長会議でも、どう生かしていくのかについて話がありましたが、新たな議会改革の取組が始まった訳でございますので、私は1年でございますけれども、議長のお手伝いをさせていただくことから、さらに議会活動計画の成果が確認できるように、少しでも進めていきたいと思っております。それと、広聴広報会議の座長としての役割が一番、私の役目になるのかと思っておりますが、これまでもみえ現場 de 県議会であるとか、みえ高校生県議会であるとか、みえ県議会だよりであるとか、さまざまな取組を通して、広聴広報活動を先輩同僚の方々が取り組んできたわけですが、正直なかなか県民の皆さんに理解していただくとか、知っていただくとか、関心を持っていただくとか、なかなか難しい部分もあると思っております。ただ、広聴広報会議に参加された委員の皆様のお話を聞かせていただいておりますと、これまでに取り組んでいただいたことは精一杯やっていたんだなと思っております。簡単に意気込みだけであれやりますとは今申し上げようはないんですが、どこかで私なりに機会を捉えて、特に若い議員の方々はいろんなアイデアを持っているかもわかりませんので、県民に関心を持ってもらう、目を向けてもらうことについて、何かいいアイデアを出していただけないかと喚起してみたいと思っております。そんなことを思いながら1年間やってまいりたいという抱負を持っております。よろしく申し上げます。

（議長）引き続き議長職を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。県民の皆さまの期待と信頼にお応えできるよう、新しい日沖副議長とともに、円滑かつ効率的な議会運営に真摯に取り組んでまいりたいと思っております。また、今までの議会改革の成果などを継続して推進してまいりたいと思っております。1年の振り返りは何度か申し上げましたけれども、昨年6月には、三重県議会として7年ぶりとなる政策討論会議を設置しました。地方創生という喫緊の政策課題について議論し、その成果をとりまとめて知事への申し入れを行ったところであります。また、昨年度はみえ県民力ビジョン・第二次行動計画の策定が行われたことから、県議会としても計画策定の段階から

詳細な調査を行い、昨年11月と本年1月の2回にわたって県議会としての意見をまとめ、知事への申し入れを行ったところです。議会改革の取り組みとしては、昨年12月に議員任期4年間を見据えた活動を計画的に行っていくため、先程委員長会議でもいろいろ議論が出ていましたが、議会活動計画を策定しました。2月定例会議では、委員会活動の自己評価にも取り組んだところであり、中身についてはもっと充実したものにしていきたいと考えています。議員提案の条例づくりとしては、昨年10月に三重県手話言語に関する条例検討会を設置し、条例の制定に向けた調査・検討が行われ、三重県手話言語条例（仮称）案がとりまとめられました。今後は、6月定例会議での成立に向け、議論が進められることを大いに期待しています。それから議長職2年目に向かうにあたりましては、さきほど触れました、12月に策定いたしました、議会活動計画を着実に実行していきたい、というふうに思います。本年は三重県議会基本条例が制定されて10年の節目を記念いたしまして、昨年度より準備を進めてまいりました、全国自治体議会改革推進シンポジウム、これを本県にて開催することとしておりまして、この機会に一人でも多くの地方議員のみなさんの参加をお願いするとともに、三重県から議会改革の重要性を改めて全国に発信していきたい、そのように考えております。また県議会として昨年、計画段階から詳細な調査を行って、知事への申し入れを行いました、みえ県民力ビジョン・第二次行動計画につきましても、その実施状況をしっかりと監視・評価していきたいと考えております。昨年いろいろ申し上げましたけれども、地方議員や地域の住民との対話、そして女性議員と連帯して女性の声を県政に生かす課題、これにつきましても、副議長と相談しながら、引き続き、議会改革推進会議や広聴広報会議の皆さまのお知恵をいただきながら、進めてまいりたいと考えております。それから、伊勢志摩サミットが終了いたしますと、ポストサミットが重要課題となってまいります。幸い今回は、サミットを契機とした地域の総合力向上についてということで、調査する特別委員会も設置されたところでございます。昨年いろいろ申し上げました、菓子博とか、インターハイとか、国体を経ての次の遷宮に向けた長期的な三重県の元気づくりと連動させてまいりたいと考えております。平和につきましては、戦後70年にあたりさまざまな場で平和の大切さを訴えてまいりました。今回はサミットを機会にということで、広島市と長崎市が主催で、ヒロシマ・ナガサキ原爆展が伊勢市観光文化会館で22日から29日まで開催されます。この場には広島市長、長崎市長もお越しをいただくと聞いております。また、サミット終了後にオバマ大統領がアメリカ大統領として初めて広島を訪問することとなりました。この機会に私からも核の廃絶に向けた取り組みの重要性を県民の皆さんに発信をしていきたいと考えております。県民の皆さん、県民の付託、期待に応えられるよう、さまざまな課題を県議会全体一丸として、取り組んでまいりたいと思います。少数会派はもとより、会派間の風通しを良くするために、しっかりと汗をかきたいと考えております。いずれにいたしましても、この1年の経験を十分に生かしながら二代表制のもと、議会改革を推し進め、三重県議会の更なる発展と円滑な議会運営のために誠心誠意進めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(質問)今日の選挙結果について、それぞれ議長からお願いします。票数の結果です。

(議長)今日の。

(質問)役選の。副議長選の結果について。特に共産さんが2票、民進党系か、新政みえさんに入れられているので、これは異例なことでもありますし。その辺の感想も含めて。

(議長)皆さんそれぞれ、所信表明会の二人の候補者の思いを聞いて投票される、そんなようなことだったのではなかったかと思っております。結果として、その結果がああ数字に出たのではないかとそのように思います。

(質問)表面上はね。日沖さんいかがですか。

(副議長)ご存じのように、拮抗した事前の予想の中の選挙やったと思っておりますので、感想は本当にああいう結果をいただいたということは光栄に思っておりますし、当然のことですけれども、より緊張感を持って、臨ませていただかなあかんと思わせていただいております。感想はそういうことですけれども。

(質問)これ同じ選挙区じゃないですか。対立候補で言ったら。この辺が地元で後でやりにくいということはないですか。

(副議長)地元でやりにくいとは思いませんけれども、ただ、やはり同じ選挙区でこういうめぐり合わせになったということは、本当に因果やなあとは思いますが。ただそのやりにくいってそういうことはないと思っておりますし、また、地元は地元でお互い地元選出の議員として、しかるべきお付き合いをさせていただきながら、共に地元で頑張らせていただきたいし、お互い尊敬もさせていただきながら、お付き合いさせていただきたいと思っております。地元の方々の感情というのは、今どうこうというのは言いようがないので、そういうことにならないように、私どもからも心がけたいと思います。

(質問)と言うことは副議長就任のパーティーはやらないと。

(副議長)それはわかりません。今はそこまで。皆さん先輩方がなられるとそんなことされたりしてみえますので、いずれそういうことになったらそうなるのかなと想像はしたことがあります。今日の時点でどうこうはまだ何も考えておりません。もし、そういうことをさせていただくことがあるにしても、皆さんがされておられることでしたら、地元で上手くいかないことに繋がるとは思いませんし、そんなことにならない

いようにしたいと思います。

(質問)第一会派から副議長ということを経済みえさんも過去に言われたことがありますし、実際それで動かされた去年の役選なんかそういう議員もいらっしゃるじゃないですか。今回、正副独占じゃないですか。同じ一つの会派。これについて議長、副議長それぞれどう思いますか。

(議長)今回、所信表明という形で立候補した二人が出た。第一、第二会派と決まっておればああいう所信表明会はいらないわけでありますので、今回、結果的にそれぞれの思いを出させてもらって票を入れていただいて、こういう形になったということだと思いますし、第一会派、第二会派と関係なしに、議会基本条例の理念に基づいて、しっかりと改革を進めていく、その部分は一致しているのではないかなと思います。

(副議長)県議会が立候補制で所信表明を行って、そして公正な選挙を行ってならしただけというのが基本だと思っております。ただこれまでの中で、第一会派が議長で第二会派が副議長であるという形になった時もありますし、ならなかった時もあります。円満にいくためには基本は選挙でございますけれども、お互い、申し合わせみたいなものも確かにこれまでそういう形でしてきたこともございますので、それを否定するとかどうかというわけではないのですが、今回はいろんなケースの中で、選挙という基本通りに堂々とお互いが立候補して、結果こういう形になったということでございます。

(質問)もともと二元代表制といって、三重県議会が議会改革に踏み出した平成7年北川県政出発時に議会改革を目指そうと、動いたじゃないですか。その中で一番懸案になっていたのは議会は一枚岩でない。各政党でバラバラだから。少なくとも一枚岩にしよう。その手立てとして第一会派は議長、第二会派は副議長、それと委員長等がある程度分けようという形で一枚岩になってきたから、三重県議会の改革が進んだという所もあるじゃないですか。それからいけば、逆行するような正副独占というのは、これが自民が仮にやっても、当然亀裂は入るわけだから、それから行けば議会改革にある程度、逆に水を差すという話になりかねないじゃないですか。その辺はこれはこれで仕方がないということですね。

(副議長)私の選挙が終わったからと言われてしまったらそれまでですけども、常に独占体制で、お互いがぶつかり合い続けるっていうことは、確かにおっしゃられるような心配も含んでくることがあるかもわかりません。ですから、とにかく私もならしただいたので、謙虚に驕ることなしに、二元代表制のお互い切磋琢磨する中で一つになれるような環境を。おっしゃられることは全部は否定しません。ですから、より一層、こういう結果になりましたけれども、真摯に謙虚に一つになっていけるように、それぞれの議員さんに敬意を表しながら、詭弁みたいに捉えるかもわかりませ

んけれども、やっぱり真心込めてやっていきたいと思っております。円満に行くように。

(質問)これは副議長自身が所信表明で少数会派の取り扱いについて、議長と相談されるという話になりましたけど、共産党さんが前から要求されている代表者会議に少数会派も入れろという話になっていきますけど、逆にそれをバーターとしたとも見れないことはないので、今後この1年間というか、早期にですね、代表者会議に共産党さんが入るような形の何らかの調整というのはされるんですか、お二人は。

(議長)私の方から所信表明会で少し申し上げましたのは、やはり代表者会議で少数会派の皆さん方のご意見をどういう形で反映できるかということについて、少し形を検討したいということを申し上げました。それから、少数会派の皆さん方とできたら正副議長と少数会派の皆さん方との話合いというか、オフィシャルにというか、オープンでお話できるような、情報交換をできるような、そういう場を定例会議ごとに、年4回くらいになろうかと思いますが、そういう場を持って、風通しも良くして、皆さん方の声が生けるように、そんなことを具体的には申し上げたところでございますし、その辺につきましては、日沖副議長と相談をさせていただきたいと思っております。

(質問)より緊張感を持って臨まなければいけないとおっしゃいましたが、あの票数の差というのは予想外だったんですか。

(副議長)いろんな予想をたてておりましたけれども。

(質問)思ったより開いた。

(副議長)正直な感想です。できるだけ1票でも多ければもちろん思っておりましたけれども。

(質問)少数会派の取り扱い、今の議長のお話だと、今の代表者会議に共産党さんを含めて少数会派から誰か入れるということじゃなくて、別個に少数会派の意見聞き取りの会合を設けるというお話です。そういうことじゃないんですか。

(議長)代表者会議につきましては、皆さんの意見がその場でできる方法はないだろうかという、ちょっと制度的なものとかいろいろ考えたいということが、それはそれで1つ。それから、別枠で定例会ごとにそういう場も設けたりとか、ダブルで何か良い方法はないだろうか、というふうに思っております。

(質問)今の前者の方法というのは、傍聴議員で質問できるとかということじゃなくて、

別個になんか方法があるということですか。

(議長) 傍聴議員からの質問よりももう一つ突っ込んだものが何かないだろうかと。これは全員のというか、それぞれの議員の皆さん方、各会派との相談もありますので、何か可能性を探りたいと思います。

(質問) 要するに、それは代表者会議のメンバーに入れるという意味ですか。

(議長) 代表者会議の中に入るということになりますと、いろいろ皆さん方の代表者会議の中での議論ということになってまいりますので、その中間で何かないだろうかとということで、ちょっと研究をしてみたいと思います。

(質問) あくまでも中間なんですね。

(議長) そうですね。

(質問) 代表者会議には入れないんですね。

(議長) 入っとるような入ってないような形になるかもわかりませんが。

(質問) いや、それじゃ一般県民はなんのことかわからない。

(議長) そうですね。ちょっとそのへんも踏まえて、少し皆さんの声を聞かないかなものですから。

(質問) 要は、代表とか各派の議員の方の意見を聞いて、そこはどのような方法が一番良いかをこれから考えるということですか。

(議長) そうですね。オブザーバー参加的な感じのご意見もやり方も、前にあったかもわかりませんが、少し何か良い方法はないだろうかと、ご意見もいろいろございますので、なるべく皆さんの声を反映できるようにということで、会派の声を反映できるようにということです。

(質問) 期限的には別に来年議長任期が終わって、他の議長に申し送りするとか、そういうことじゃなくて、もっとスピード感はあるわけですか。

(議長) スピード感を出したいと思います。

(以上) 14時23分終了